

(様式第 10)

愛大医総第 239 号

平成 26 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 愛媛大学長 柳澤 康信

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏 名	国立大学法人愛媛大学長 柳澤 康信

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛媛大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒791-0295	愛媛県東温市志津川	電話(089)964-5111
-----------	-----------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	④ ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1. 循環器内科 2. 消化器内科 3. 老年・神経内科 4. 薬物療法・神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1. 消化器腫瘍外科 2. 肝臓・胆のう・膵臓・移植外科 3. 消化器外科 4. 心臓血管・呼吸器外科 5. 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑬麻酔科	16救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1. 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1. 病理診断科
----------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	586床	626床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	218人	161人	335.7人	看 護 補 助 者	67人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	6人	9人	12.4人	理 学 療 法 士	6人	臨 床 検 査 技 師	45人
薬 剤 師	45人	1人	45.7人	作 業 療 法 士	4人	臨 床 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人		
助 産 師	13人	0人	13人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	625人	21人	639.9人	臨 床 工 学 技 士	14人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	6人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	22人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	128人
管 理 栄 養 士	9人	0人	9人	診 療 放 射 線 技 師	33人	そ の 他 の 職 員	30人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	17人	眼科専門医	15人
外科専門医	31人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	12人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	4人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	3人
		合 計	161人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	495.8人	14.0人	509.8人
1日当たり平均外来患者数	1,216.1人	58.7人	1,274.8人
1日当たり平均調剤数			839.9剤
必要医師数			123人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			30人
必要(准)看護師数			311人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病 床 数	心 電 計	心 細 動 除 去 装 置	ペー ス メー カ ー
集中治療室	432 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	22床	(有)・無	(有)・無	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	(有)・無	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	(有)・無	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 208m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	10床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 20m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	302m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動検体検査システム 全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	266m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) MALDI-ハイパー (細菌同定装置) 自動細菌培養装置			
病理検査室	175m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 液状化検体細胞診標本作製装置 自動免疫染色装置			
病理解剖室	112m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、局所排気装置			
研究室	314m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、顕微鏡、プロジェクターなど			
講義室	734m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 10室	収容定員 300人		
図書室	99m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 1室	蔵書数10,000冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	86.9%	逆紹介率	63.6%
算出根拠 A: 紹介患者の数			12,464人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,340人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			303人
D: 初診の患者の数			14,685人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	5人
他焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	6人
前眼部三次元画像解析	14人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
カフェイン併用化学療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 実績なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	69人	・膿疱性乾癬	6人
・多発性硬化症	97人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	68人	・原発性胆汁性肝硬変	35人
・全身性エリテマトーデス	147人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	78人
・再生不良性貧血	29人	・混合性結合組織病	46人
・サルコイドーシス	60人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	28人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	138人	・網膜色素変性症	30人
・特発性血小板減少性紫斑病	48人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	100人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	24人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	46人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	36人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	43人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	179人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	11人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・後縦靭帯骨化症	117人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	34人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	29人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	19人	・黄色靭帯骨化症	12人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	6人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	47人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療環境体制加算	総合評価加算
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算
特定機能病院入院基本料 一般	データ提出加算
特定機能病院入院基本料 精神	特定集中治療室管理料4
看護補助加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
臨床研修病院入院診療加算 医科	新生児特定集中治療室管理料1
臨床研修病院入院診療加算 歯科	新生児治療回復室入院医療管理料
救急医療管理加算	小児入院医療管理料2
超急性期脳卒中加算	小児入院医療管理料4
妊産婦緊急搬送入院加算	短期滞在手術等基本料2
診療録管理体制加算2	入院時食事療養/生活療養(I)
急性期看護補助体制加算	
療養環境加算	・
重症者等療養環境特別加算	・
無菌治療室管理加算1	・
無菌治療室管理加算2	・
精神科身体合併症管理加算	・
がん診療連携拠点病院加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1	・
患者サポート体制充実加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
退院調整加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型除細動器移行期加算	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
高度難聴指導管理料	植込型心電図検査
糖尿病合併症管理料	時間内歩行試験
がん性疼痛緩和指導管理料	胎児心エコー法
がん患者指導管理料1	ヘッドアップティルト試験
がん患者指導管理料2	皮下連続式グルコース測定
がん患者指導管理料3	長期継続頭蓋内脳波検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	神経学的検査
糖尿病透析予防指導管理料	補聴器適合検査
外来リハビリテーション診療料	ロービジョン検査判断料
ニコチン依存症管理料	コンタクトレンズ検査料1
歯科治療総合医療管理料	小児食物アレルギー負荷検査
地域連携診療計画管理料	内服・点滴誘発試験
がん治療連携計画策定料	CT透視下気管支鏡検査加算
がん治療連携管理料	画像診断管理加算2
認知症専門診断管理料	遠隔画像診断
肝炎インターフェロン治療計画料	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
薬剤管理指導料	CT撮影及びMRI撮影
医療機器安全管理料1	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料2	大腸CT撮影加算
医療機器安全管理料(歯科)	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
造血器腫瘍遺伝子検査	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料
検体検査管理加算(I)	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
検体検査管理加算(IV)	運動器リハビリテーション料(I)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
歯科口腔リハビリテーション料2	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
精神科作業療法	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	補助人工心臓
医療保護入院等診療料	経皮的動脈遮断術
エタノールの局所注入(甲状腺)	内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術
エタノールの局所注入(副甲状腺)	ダメージコントロール手術
一酸化窒素吸入療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
CAD/CAM冠	腹腔鏡下肝切除術
歯周組織再生誘導手術	生体部分肝移植術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	同種死体肝移植術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術	同種死体腎移植術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	生体腎移植術
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	膀胱水圧拡張術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
網膜再建術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。 )に掲げる手術
乳がんセンチネルリンパ節加算1	輸血管管理料Ⅰ
経皮的冠動脈形成術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
経皮的冠動脈ステント留置術	内視鏡手術用支援機器加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	歯周組織再生誘導手術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	麻酔管理料(Ⅰ)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
麻酔管理料(Ⅱ)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
高エネルギー放射線治療	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療(IGRT)	
直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
歯科技工加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
病理診断管理加算1	
口腔病理診断管理加算1	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	.
先天性難聴の遺伝子診断(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託するもの)	.
インプラント義歯	.
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	16回
部 検 の 状 況	部検症例数 18例 / 部検率 11.20%

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アcantアメラ角膜炎制御にむけたコンタクトレンズケアの実態調査	大橋 裕一	大学院医学系研究科	4,200,000	補委	厚生労働省
中高度難聴者への超磁歪素子を用いた埋め込み型骨導人工中耳の開発	羽藤 直人	大学院医学系研究科	9,000,000	補委	厚生労働省
白血病幹細胞根絶を目指した人工CTLによる新規免疫遺伝子治療の開発研究	安川 正貴	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
白血病幹細胞根絶を目指した人工CTLによる新規免疫遺伝子治療の開発研究	安川 正貴	大学院医学系研究科	3,000,000	補委	日本学術振興会
超磁歪素子を用いた次世代埋め込み型骨導補聴器の開発とその臨床評価	暁 清文	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
超磁歪素子を用いた次世代埋め込み型骨導補聴器の開発とその臨床評価	暁 清文	大学院医学系研究科	600,000	補委	日本学術振興会
骨リモデリング機構解明のための革新的蛍光イメージングシステムの開発	今村 健志	大学院医学系研究科	4,200,000	補委	日本学術振興会
Smurf/Arkadiaによる表皮自然免疫の分子制御機構の解明	佐山 浩二	大学院医学系研究科	4,100,000	補委	日本学術振興会
Smurf/Arkadiaによる表皮自然免疫の分子制御機構の解明	佐山 浩二	大学院医学系研究科	2,700,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化性疾患のリスク評価における感受性遺伝子の交絡解明とエビデンス構築	三木 哲郎	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化性疾患のリスク評価における感受性遺伝子の交絡解明とエビデンス構築	三木 哲郎	大学院医学系研究科	3,100,000	補委	日本学術振興会
TGFβ/β-cateninシグナルによるT細胞応答・恒常性の制御機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	2,900,000	補委	日本学術振興会
サルコペニック肥満の病態解明に関する研究	小原 克彦	大学院医学系研究科	4,400,000	補委	日本学術振興会
アミノ酸転移酵素AGT2に注目した精神障害の解析研究	上野 修一	大学院医学系研究科	1,700,000	補委	日本学術振興会
アミノ酸転移酵素AGT2に注目した精神障害の解析研究	上野 修一	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会
睡眠呼吸障害による耐糖能異常発現の機序解明を目的としたコホート研究	谷川 武	大学院医学系研究科	1,500,000	補委	日本学術振興会
睡眠呼吸障害による耐糖能異常発現の機序解明を目的としたコホート研究	谷川 武	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
口腔癌関連microRNAの発現機能解析と臨床応用	中城 公一	大学院医学系研究科	700,000	補委	日本学術振興会
口腔癌関連microRNAの発現機能解析と臨床応用	中城 公一	大学院医学系研究科	2,500,000	補委	日本学術振興会
マラリア原虫スポロゾイトの蚊唾液腺侵入を担う分子群の解析	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	1,300,000	補委	日本学術振興会
マラリア原虫スポロゾイトの蚊唾液腺侵入を担う分子群の解析	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	3,200,000	補委	日本学術振興会
ADAM17を介するShedding制御機構とレムナントペプチドシグナルの解析	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	1,200,000	補委	日本学術振興会
ADAM17を介するShedding制御機構とレムナントペプチドシグナルの解析	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	3,200,000	補委	日本学術振興会
3次元蛍光イメージングによる骨細胞機能ダイナミズムの可視化と骨の生理・病態解析	飯村 忠浩	プロテオサイエンスセンター	4,200,000	補委	日本学術振興会
宿主免疫評価に基づいた口腔癌分子標的免疫療法の開発	浜川 裕之	大学院医学系研究科	3,500,000	補委	日本学術振興会
宿主免疫評価に基づいた口腔癌分子標的免疫療法の開発	浜川 裕之	大学院医学系研究科	2,200,000	補委	日本学術振興会
アンジオテンシンIIタイプ2受容体機能調節物質を軸とした体系的認知機能増加制御	堀内 正嗣	大学院医学系研究科	3,500,000	補委	日本学術振興会
アンジオテンシンIIタイプ2受容体機能調節物質を軸とした体系的認知機能増加制御	堀内 正嗣	大学院医学系研究科	2,200,000	補委	日本学術振興会
三日熱マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原の探索	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	3,100,000	補委	日本学術振興会
三日熱マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原の探索	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	2,000,000	補委	日本学術振興会
新規アディポカインBAFFが非アルコール性脂肪性肝疾患の病態に及ぼす影響	阿部 雅則	大学院医学系研究科	1,000,000	補委	日本学術振興会

血小板アポトーシス反応の生理的役割と臨床的意義	羽藤 高明	医学部附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
小児睡眠時無呼吸症候群の疫学と介入研究	岡 靖哲	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
心停止ドナーからの胚移植後の虚血再灌流障害の機序解明と抑制	岡崎 幹生	医学部附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
着床前胚における分泌型プロカイン産生細胞の同定と細胞内動態の解明	下川 哲哉	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会
移植骨の生着を促進する再置換人工関節近傍の周辺環境設計	間島 直彦	大学院医学系研究科	800,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた培養皮膚の作製法の開発	亀田 健治	総合科学研究支援センター	900,000	補委	日本学術振興会
マウスモデルを用いたPPAR $\alpha$ 活性化機序と動脈硬化抑制効果の解析	吉永 佳代	医学部附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
蚊中腸内マラリア原虫の虫体表面に発現する分子の機能解析	橘 真由美	プロテオサイエンスセンター	1,200,000	補委	日本学術振興会
浸潤細胞を使って脳梗塞を治す	久門 良明	大学院医学系研究科	1,200,000	補委	日本学術振興会
半導体SPECTを用いた心筋局所血流の定性・定量解析による虚血性心疾患の総合診断	宮川 正男	医学部附属病院	1,600,000	補委	日本学術振興会
膠原病疾患モデル組換え近交系マウスを用いた膠原病治療法の開発	宮崎 龍彦	プロテオサイエンスセンター	1,600,000	補委	日本学術振興会
高感度質量分析法による皮膚疾患バイオマーカーの網羅的探索	橋本 公二	先端研究・学術推進機構学術企画室	1,300,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性膵炎におけるBAFF, APRILの臨床的有用性についての検討	熊木 天児	医学部附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
In vivo 光イメージングを利用した膠芽腫幹細胞の破綻環境の探索	原田 広信	医学部附属病院	2,100,000	補委	日本学術振興会
MLL転座型白血病の白血球幹細胞の同定と治療応用に向けての基礎研究	江口 真理子	大学院医学系研究科	1,500,000	補委	日本学術振興会
運動器分野の検診と理学療法指導体制の包括的連携を実現する医療情報システムの開発	高橋 敏明	医学部附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
心停止ドナー肝移植の実施に向けた前臨床研究	高田 泰次	大学院医学系研究科	1,800,000	補委	日本学術振興会
骨髄幹細胞を用いた虚血性難聴に対する新規の再生治療法の開発	阪中 雅広	大学院医学系研究科	1,800,000	補委	日本学術振興会
骨髄増殖性腫瘍の新しい原因遺伝子Lnkの機能解析	山之内 純	医学部附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
生理学的な血流シミュレーションシステムに基づく小児複雑心奇形手術の術式最適化計画	鹿田 文昭	医学部附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
2型糖尿病の腎障害発症リスクに及ぼす食事中脂質の影響	住吉 真帆	大学院医学系研究科	1,200,000	補委	日本学術振興会
マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞を用いた角膜上皮再建の試み	小林 剛	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
診療情報の意味論的解析を行う自律エージェントアルゴリズムの研究	小林 慎治	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
蛍光標識タイムラプス記録法を用いたプロカインの細胞内動態の追跡	小林 直人	大学院医学系研究科	1,700,000	補委	日本学術振興会
多光子顕微鏡による二分脊髄神経回路の可視化	松田 正司	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
脳波解析によるアロマ足浴の入眠効果に関する研究	乗松 貞子	大学院医学系研究科	200,000	補委	日本学術振興会
高齢がん患者の終末期に関する意思決定支援プログラムの開発	森 一恵	大学院医学系研究科	800,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷後に新生する神経回路の解明とp38 MAPK inhibitorの効果	森野 忠夫	医学部附属病院	1,600,000	補委	日本学術振興会
児童虐待発生予防に向けた発達障害児の幼児期から学童期の地域生活支援モデルの開発	西嶋 真理子	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
地域における循環器疾患対策のための新たな評価モデルの構築	斉藤 功	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
専門職連携教育による地域医療実習を通じて形成される地域志向性を評価する尺度の開発	川本 龍一	大学院医学系研究科	500,000	補委	日本学術振興会
心移植後の慢性拒絶反応(冠動脈硬化病変)発生機序解明に関する研究	泉谷 裕則	大学院医学系研究科	1,200,000	補委	日本学術振興会
エクリン汗免疫異常の改善による掌蹠膿疱症の病態制御	村上 正基	医学部附属病院	1,900,000	補委	日本学術振興会
ケラチン12遺伝子発現のメカニズム解析	大橋 裕一	大学院医学系研究科	500,000	補委	日本学術振興会

HLAによる糖尿病の新分類の試み	大沼 裕	大学院医学系研究科	1,600,000	補委	日本学術振興会
microRNAプロファイリングによる悪性グリオーマの新規治療法の開発	大西 丘倫	大学院医学系研究科	2,300,000	補委	日本学術振興会
特発性心筋症における網羅的遺伝子解析による心血管事故リスク層別化の検討	大木元 明義	医学部附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
SNP・環境因子統合エピジェネティクスによるレジスチン遺伝子発現調節機構の解明	大澤 春彦	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
認知症でみられる作話・取り繕い、妄想の客観的臨床指標の作成とバイオマーカーの確立	谷向 知	大学院医学系研究科	1,000,000	補委	日本学術振興会
新規抗菌物質Firmocidin及びエクリン汗自然免疫を応用した創傷治癒システム	中岡 啓喜	医学部附属病院	1,700,000	補委	日本学術振興会
ヒト制御性T細胞および免疫抑制系樹状細胞の効率良い誘導法の確立と治療への展開	長谷川 均	大学院医学系研究科	1,200,000	補委	日本学術振興会
神経栄養因子を用いた嚥下関与筋のアンチエイジングに関する研究	田口 亜紀	大学院医学系研究科	700,000	補委	日本学術振興会
在宅要介護高齢者の排泄機能と介護力のアセスメントに基づく援助方法	田中 久美子	大学院医学系研究科	700,000	補委	日本学術振興会
ヒト化動物モデルを用いた難治性EBウイルス感染症の免疫治療に関する研究	田内 久道	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞ワクチン療法と抗癌剤の最適併用プロトコルの確立に関する検討	田野 智之	医学部附属病院	1,900,000	補委	日本学術振興会
オーロラAキナーゼを標的とした成人T細胞白血病に対する新たな包括的治療戦略	東 太地	医学部附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
免疫記憶細胞化した遺伝子改変T細胞を利用する白血病に対する新規細胞免疫療法の開発	藤原 弘	医学部附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
IL-22によるヒト表皮角化細胞の分化の制御についての検討	藤山 幹子	医学部附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌に対するナノポリマー修飾新規ウイルス療法の開発	那波 明宏	大学院医学系研究科	2,100,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌におけるPKRの役割とその宿主細胞機能修飾	日浅 陽一	大学院医学系研究科	1,500,000	補委	日本学術振興会
アポトーシス、アノキス抵抗性の解除に着目した転移制御研究	日野 聡史	医学部附属病院	1,700,000	補委	日本学術振興会
正常靭帯機能を有する次世代人工膝関節の開発	日野 和典	医学部附属病院	1,700,000	補委	日本学術振興会
N-Halfオステオポンチンを介した動脈硬化プラーク破裂機構の解明と新規治療戦略	入田 純	医学部附属病院	1,500,000	補委	日本学術振興会
マウス角膜上皮幹細胞マーカー同定の試み	白石 敦	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会
神経幹細胞による虚血性内耳障害抑制効果の機序解明の研究	白馬 伸洋	医学部附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
尋常性乾癬における細胞内シグナル伝達としてのBcl3、p50の機能解析	白方 裕司	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
BDNF遺伝子を過剰発現させた自家マクロファージ硬膜内注入による脊髄損傷の治療	尾形 直則	医学部附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
熱性痙攣と内側側頭葉てんかんの神経免疫学的機序の解明と新たな分子標的療法の開発	福田 光成	医学部附属病院	1,500,000	補委	日本学術振興会
サイトカインシグナルによる乳腺細胞の腺房構築異常とがん化との関連	福田 信治	プロテオサイエンスセンター	1,400,000	補委	日本学術振興会
心サルコイドーシスの診断におけるFDG-PET検査の有用性に関する検討	望月 輝一	大学院医学系研究科	1,500,000	補委	日本学術振興会
破骨細胞前駆細胞における破骨細胞分化因子受容体(RANK)発現制御機構の解析	北澤 理子	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
血液脳関門の破綻により誘導される糖尿病性認知症への分子病態の解明と治療戦略	茂木 正樹	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
伝統薬物成分の紫外線による光化学療法および発癌抑制とその作用機構	木村 善行	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会
スパン80ベシクルによるDDSを用いた骨腫瘍に対するカフェイン療法の開発	木谷 彰岐	医学部附属病院	900,000	補委	日本学術振興会
ナトリウムイオン/プロトン交換輸送体1抑制による神経膠腫細胞浸潤制御	矢野 元	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会
小児1型糖尿病患者へのメンタリングを用いた教育・看護介入プログラムの応用的研究	薬師神 裕子	大学院医学系研究科	1,000,000	補委	日本学術振興会
パイオイメージングを用いた角膜実質幹細胞の同定	林 康人	医学部附属病院	1,200,000	補委	日本学術振興会
大動脈周囲脂肪組織のアンジオテンシンII受容体サブタイプが大動脈瘤発症に与える影響	鈴木 純	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会



脱髄疾患に対するケトン食療法の新たな応用—ケトン体の神経保護作用機序の解明—	鈴木 由香	大学院医学系研究科	800,000	補委	日本学術振興会
ポリマー多重加工オンコリテックアデノウイルスによる卵巣癌特異的遺伝子治療法開発	濱田 雄行	医学部附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
生体イメージングを用いたグリオーマ幹細胞と血管新生・癌微小環境ダイナミズムの解明	高橋 寿明	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
レジスチンによる免疫機構の変化を介した糖尿病発症メカニズムの解明と発症予知	高田 康徳	大学院医学系研究科	1,000,000	補委	日本学術振興会
角膜標的細胞誘導条件・培養法の検討と臨床応用	井上 智之	大学院医学系研究科	1,100,000	補委	日本学術振興会
E3ユビキチンリガーゼCUL3による血管新生制御機構の解析	坂上 倫久	プロテオサイエンスセンター	1,400,000	補委	日本学術振興会
上方照明による腹腔鏡手術照明システムの有用性の検討	高井 昭洋	医学部附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
エピゲノムを駆使した革新的骨・関節疾患治療戦略開発の基盤構築	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	4,700,000	補委	日本学術振興会
エピゲノムを駆使した革新的骨・関節疾患治療戦略開発の基盤構築	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	4,200,000	補委	日本学術振興会
生体の非線形光学効果を利用した無染色イメージングの医療応用のための基礎基盤研究	大嶋 佑介	医学部附属病院	1,800,000	補委	日本学術振興会
生体の非線形光学効果を利用した無染色イメージングの医療応用のための基礎基盤研究	大嶋 佑介	医学部附属病院	5,800,000	補委	日本学術振興会
ピロリ菌に含まれる糖脂質によるiNKT細胞の活性化とその機能	伊藤 有紀	プロテオサイエンスセンター	1,700,000	補委	日本学術振興会
生体光イメージングを利用した膠芽腫幹細胞の機能解析と分化誘導療法の新規開発	井上 明宏	医学部附属病院	2,300,000	補委	日本学術振興会
機能未知Y染色体遺伝子による骨格性差構築の新規分子基盤の解明	井上 和樹	総合科学研究支援センター	1,800,000	補委	日本学術振興会
網羅的遺伝子解析による心房細動基質の検討	永井 啓行	医学部附属病院	1,400,000	補委	日本学術振興会
脂腺細胞の新規分泌膜小胞セボゾームの生成、分泌機構の解明	永井 彩子	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
光線力学療法による角膜感染症治療の試み	岡 奈央子	医学部附属病院	800,000	補委	日本学術振興会
新規転移診断遺伝子による口腔癌特異的 O SNA 法の開発	岡 亮太	大学院医学系研究科	2,300,000	補委	日本学術振興会
ヒトリパ管内皮細胞におけるLYVE-1 sheddingの誘導	岡崎 秀規	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
糖尿病予防におけるビタミンD-カルシウムの相互作用に関するコホート研究	丸山 広達	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
血管性認知症におけるAT2受容体および神経伝達物質の相互作用に着目した検討	岩波 純	大学院医学系研究科	1,600,000	補委	日本学術振興会
局所温熱化学療法は転移リンパ節に対しても有効な治療法となりうるか	吉田 素平	医学部附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
皮膚構成細胞に対するLEDの作用メカニズムの解析	宮脇 さおり	医学部附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
T細胞運命決定における転写抑制因子Bach2の役割解析	桑原 誠	医学部附属病院	1,700,000	補委	日本学術振興会
雄性生殖管を基軸とする雌性生殖器の新たな発生基盤	原口 竜摩	大学院医学系研究科	2,800,000	補委	日本学術振興会
外来がん化学療法を受ける患者の口腔粘膜炎に対するセルフケア支援プログラムの構築	光井 綾子	大学院医学系研究科	300,000	補委	日本学術振興会
睡眠時間及び睡眠の質と血圧及び動脈硬化との関連に関する疫学研究	江口 依里	大学院医学系研究科	1,600,000	補委	日本学術振興会
マルチマーカーによるOSNA法を用いた口腔癌センチネルリンパ節生検の確立	合田 啓之	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
肥満に伴う肝発癌に寄与する脂肪酸組成の同定とその機序の解明	三宅 映己	大学院医学系研究科	1,800,000	補委	日本学術振興会
ES細胞由来神経幹細胞を用いた、脳性麻痺に対する革新的な神経再生療法の開発	朱 鵬翔	大学院医学系研究科	400,000	補委	日本学術振興会
肝および肝腫瘍の非侵襲的硬度測定と臨床的有用性	小泉 洋平	医学部附属病院	1,000,000	補委	日本学術振興会
Zfp521ノックアウトマウスは造血器および脳神経の発生分化機構の解明に寄与する	松原 悦子	医学部附属病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
地域高齢者の悉皆調査による認知症とリスク要因としての抑うつとの関連の実態調査	松本 光央	医学部附属病院	1,700,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病の精神行動障害と脳画像および神経栄養因子の総合的解析	森 崇明	医学部附属病院	2,000,000	補委	日本学術振興会

脳梗塞巣辺縁部に存在するNG2陽性マイクログリアの病態生理学的意義の解明	杉本 香奈	大学院医学系研究科	1,800,000	補委	日本学術振興会
細胞表面の糖タンパク質を標的とした口腔癌治療の開発	石川 詔子	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
施設入所高齢者に対する尿意の確認に基づいた排尿援助方法の再構築	中村 五月	大学院医学系研究科	800,000	補委	日本学術振興会
OncomiR を標的とした新規口腔癌治療の開発	田中 宏史	医学部附属病院	1,600,000	補委	日本学術振興会
スピロプラズマ特異的ロブトリー蛋白質欠損原虫作出によるマラリアの宿主侵入機構の解析	徳永 順士	総合科学研究支援センター	687,566	補委	日本学術振興会
新規子宮内膜症マーカーの産生メカニズムに関する基礎的・臨床的研究	鍋田 基生	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
細胞内張力によるヒト表皮角化細胞の増殖制御	難波 大輔	上級研究員センター	1,700,000	補委	日本学術振興会
インシデント防止のための診療ガイドラインの活用方法の探索:転倒防止に焦点をあててアデノシンレセプターを介する術後疼痛治療法の開発	福田 里砂	大学院医学系研究科	2,551,883	補委	日本学術振興会
医療の質を高める臨床判断支援が可能な次世代電子カルテシステムの基盤技術開発	堀内 秀樹	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
木村 映善	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会	
黄色ブドウ球菌点眼ワクチンの開発	鈴木 崇	医学部附属病院	700,000	補委	日本学術振興会
ES細胞由来神経幹細胞を用いた、虚血性難聴に対する革新的な再生療法の開発	高木 太郎	医学部附属病院	400,000	補委	日本学術振興会
NK1受容体を標的とした新規潰瘍性大腸炎治療薬の検討	安永 大輝	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
オキサリプラチン誘発末梢神経障害の治療薬に関する薬学的研究	山下 登	医学部附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
広汎性発達障害に併存する気分障害の早期発見のための投影法に関する検討	竹之内 美希	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎およびその治療薬が中枢神経系に与える影響に関する研究	田坂 祐一	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
放射線誘発口内炎に対するエダラボンの防護作用に関する研究	渡邊 真一	医学部附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
脳内カンナビノイド受容体を介した新規抗てんかん薬の創薬に関する基礎的研究	内舩 健	医学部附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
カペントピリン誘発手足症候群の新規モデル動物の作製と治療薬に関する薬理学的研究	飛鷹 範明	医学部附属病院	600,000	補委	日本学術振興会
実験てんかんキンドリングマウスを用いた情動機能変化および治療薬の探索研究	武智 健一	医学部附属病院	500,000	補委	日本学術振興会
新規intravital蛍光イメージングシステムの開発とがん微小環境の解析	今村 健志	大学院医学系研究科	12,400,000	補委	日本学術振興会
核マトリクス変動を介したT細胞運命制御機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	4,400,000	補委	日本学術振興会
インフラマソームを活性化する内因性リガンドの探索・同定とその病理学的意義の解明	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	3,600,000	補委	日本学術振興会
新たな血管新生バランス制御因子CUL3の多機能解析	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	4,300,000	補委	日本学術振興会
骨内リアルタイムイメージングが明らかにする骨機械刺激受容メカニズム	佐々木 真理	大学院医学系研究科	800,000	補委	日本学術振興会
絶対定量質量分析法を用いた汗のプロテオーム解析によるアトピー性皮膚炎の病態解明	佐山 浩二	大学院医学系研究科	1,200,000	補委	日本学術振興会
先進的遺伝子工学と革新的生体光イメージングによる軟骨でのTGF-β調節機構の解析	三浦 裕正	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
高齢者フレイルティの新しい評価指標としての立位動揺性	三木 哲郎	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
活性化T細胞運命決定の普遍的分子機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	1,800,000	補委	日本学術振興会
術後変化に対応し得る人工耳小骨の開発に関する研究	山田 啓之	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
フレイルティリスクとしての自律神経機能障害:立位負荷による評価	小原 克彦	大学院医学系研究科	1,200,000	補委	日本学術振興会
婦人科悪性腫瘍におけるLgr4機能解析と抗体医薬品開発に向けた研究	小泉 雅江	大学院医学系研究科	1,400,000	補委	日本学術振興会
温度感受性SV40ラージT抗原を用いたマウス不死化赤芽球系前駆細胞株の樹立	青戸 守	大学院医学系研究科	900,000	補委	日本学術振興会
マラリア原虫雄特異的に発現するプロテアーゼの機能解析	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	1,700,000	補委	日本学術振興会

コムギ胚芽無細胞蛋白質合成によるIgG4 関連腎疾患の抗原同定と腎病理形態の解析	増本 純也	プロテオサイエンスセン ター	1,200,000	補 委	日本学術振興会
Id蛋白脱ユビキチン化酵素阻害による口腔 癌分化誘導療法	村瀬 隆一	大学院医学系研究科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
超微細中空ファイバーバンドルを用いた生体 深部の非線形光学イメージング	大嶋 佑介	医学部附属病院	1,000,000	補 委	日本学術振興会
次世代シーケンサーによる舌痛症関連唾液m icroRNAの探索	中城 公一	大学院医学系研究科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
膜蛋白質sheddingの絶対定量解析基 盤技術の確立と慢性炎症反応モニタリング	東山 繁樹	プロテオサイエンスセン ター	1,300,000	補 委	日本学術振興会
蛍光技術を駆使した革新的骨髄イメージング 法の開発と骨転移の時空間的解析	疋田 温彦	大学院医学系研究科	1,600,000	補 委	日本学術振興会
口腔癌先制医療への唾液 microRNA の応用	浜川 裕之	大学院医学系研究科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
常温遺伝子増幅によるメチル化シトシンin situ検出法の開発	北澤 荘平	大学院医学系研究科	500,000	補 委	日本学術振興会
がんに対する新規免疫遺伝子治療の開発研 究	安川 正貴	大学院医学系研究科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
ダイオキシン受容体(AhR)の破骨細胞にお ける分子作用のメカニズム解明	今井 祐記	プロテオサイエンスセン ター	1,200,000	補 委	日本学術振興会

計 177

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Matsumoto, T. 他	第一内科	Protein kinase C inhibitor generates stable human tolerogenic dendritic cells.	PLoS One.2013;8(12):e78191.
2	Miyazaki, 他	第一内科	Maximum standard uptake value of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography is a prognostic factor for progression-free survival of newly diagnosed patients with diffuse large B cell lymphoma.	J Gastroenterol Hepatol 28 (Suppl 4): 48-53, 2013.
3	Miyazaki, Y. 他	第一内科・造血細胞移植センター	Development of a novel redirected T-cell-based adoptive immunotherapy targeting human telomerase reverse transcriptase for adult T-cell leukemia.	J Neurology and Neurophysiology, 2013; 4: 164-174.
4	Onishi, S. 他	第一内科	Multiple tumoral calcinosis in systemic sclerosis.	Seizure.22: 320-323.
5	Yamanouchi, J. 他	第一内科	Novel causative and neutral mutations in a patient with protein C deficiency.	Clin Dev Immunol: 607073,2013. [3.064]
6	Katsuji Inoue 他	第二内科・循環器病センター	Impact of Septal Curvature on Regional Strain in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy.	PLoS One 8: e56820, 2013.
7	Ken-ichi Miyoshi 他	第二内科	Effects of Dividing Amlodipine Daily Doses on Trough Drug Concentrations and Blood Pressure Control Over a 24-Hour Period.	J Orthop Sci 2013 Aug 9.[Epub ahead of print]
8	Kousei Ohshima 他	第二内科・循環器病センター	Possible Role of Angiotensin-Converting Enzyme 2 and Activation of Angiotensin II Type 2 Receptor by Angiotensin-(1?7) in Improvement of Vascular Remodeling by Angiotensin II Type 1 Receptor Blockade	Molecular and clinical oncology.2013;1:165-170.
9	Kousei Ohshima 他	第二内科・循環器病センター	Therapeutic Approach for Neuronal Disease by Regulating Renin-Angiotensin System.	Eur Arch Otorhinolaryngol 271:1891?1895,2013.
10	Seigo Miyoshi 他	第二内科・循環器病センター・救急部	Usefulness of a Selective Neutrophil Elastase Inhibitor, Sivelestat, in Acute Lung Injury Patients with Sepsis.	Emerg Med J 30(11):985,2013.

11	Takafumi Okura 他	第二内科	Jitsuo Higaki; Ehime Study, Effect of Anti-hypertensive therapy on Regression of Cardiac Hypertrophy (E-SEARCH) trial investigators. Comparison of the Effect of Combination Therapy with an Angiotensin II Receptor Blocker and Either a Low-Dose Diuretic or Calcium Channel Blocker on Cardiac Hypertrophy in Patients with Hypertension.	Ultrasound Med Biol 39(7):1178-83,2013.
12	Matsuura B 他	第三内科	Obesity and GL-liver disorders in Japan.	Eur J Endocrinol 2013; 169: 239-246. [3.136]
13	Abe M 他	第三内科	T helper 17 cells in autoimmune liver diseases.	Otol Neurotol 35(3):540-544,2013.
14	Furukawa S 他.	第三内科	Nocturnal intermittent hypoxia as an associated risk factor for microalbuminuria in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	Clin Otolaryngol 38(5):394-397,2013.
15	Kawasaki K 他	第三内科	Blockade of B cell-activating factor signaling enhances hepatic steatosis induced by a high-fat diet and improves insulin sensitivity.	JAMA Otolaryngol Head Neck Surg 139(12):1339-1342,2013.
16	Koizumi M 他	第三内科	Increased B cell-activating factor promotes tumor invasion and metastasis in human pancreatic cancer.	Auris Nasus Larynx. 40(6):569-572,2013.
17	Kuroda T 他	第三内科	EPOCH Study Group:Improvement of long-term outcomes in pancreatic cancer and its associated factors within the gemcitabine era:A collaborative retrospective multicenter clinical review of 1,082 patients.	JBJS-Br 95B(4) 493-7. 2013.
18	Matsuura B 他	第三内科	Obesity and GL-liver disorders in Japan.	Cerebrovasc Dis.36:401-406,2013.
19	Miyake T 他	第三内科	Body mass index is the most useful predictive factor for the onset of nonalcoholic fatty liver disease:a community-based retrospective longitudinal cohort study.	J Neurol Sci.325:137-141,2013.
20	Miyake T 他	第三内科	B cell-activating factor is associated with the histological severity of nonalcoholic fatty liver disease.	Cornea.32 Suppl 1:S71-6, 2013.
21	Miyake T 他	第三内科	Non-alcoholic fatty liver disease: Factors associated with its presence and onset.	Exp Eye Res.108:23-32, 2013.
22	Mori K 他	第三内科	Oral administration of carbonic anhydrase I ameliorate murine experimental colitis induced by Foxp3-CD4+CD25-T cells.	Case Rep Ophthalmol.4(3):27 4-8, 2013.
23	Nunoi H 他	第三内科	Portal biliopathy diagnosed using color doppler and contrast-enhanced ultrasound.	Surg Today DOI 10.1007/s00595-013-0626-1
24	Nunoi H 他	第三内科	Portal biliopathy diagnosed using color doppler and contrast-enhanced ultrasound.	Circulation Journal 77: 1040-1045, 2013.

25	Tada F 他	第三内科	B cell activating factor in obesity is regulated by oxidative stress in adipocytes.	ISRN Endocrinol 2013; 2013: 979481.
26	Watanabe T 他	第三内科	Protein kinase R modulates c-Fos and c-Jun signaling to promote proliferation of hepatocellular carcinoma with hepatitis C virus infection.	Ann Clin Biochem 2013; 50: 457-464. [1.991]
27	Yorimitsu N 他	第三内科	Colonic intussusception caused by anisakiasis: a case report and review of the literature.	PLoS One 2013; 13: e65886. [3.730]
28	Igase M 他	老年・神経内科 抗加齢・予防医療センター 第三内科	Deep cerebral microbleeds are negatively associated with HDL-C in elderly first-time ischemic stroke patients.	Hypertens Res 2013; 36: 634-638. [2.791]
29	Igase M 他	老年・神経内科 抗加齢・予防医療センター 第三内科	Visit-to-visit variability in systolic blood pressure is a novel risk factor for the growth of intracranial aneurysms.	Clin Exp Hypertens 2013 Oct 28. [1.276]
30	Kawamoto R 他	老年・神経内科 第三内科	A slightly high-normal glucose level is associated with increased arterial stiffness in Japanese community-dwelling persons with pre-diabetes.	Endocrine 2013; 43: 334-341. [2.225]
31	Kawamoto R 他	老年・神経内科 第三内科	An association between body mass index and high-sensitivity C-reactive protein concentrations is influenced by age in community-dwelling persons.	Vasc Med 2013; 18: 251-256. [2.080]
32	Kawamoto R 他	老年・神経内科 第三内科	Serum uric acid is more strongly associated with impaired fasting glucose in women than in men from a community-dwelling population.	Lab Invest 93:311-321,2013. [3.961]
33	Kawamoto R 他	老年・神経内科 第三内科	Synergistic influence of age and serum uric acid on blood pressure among community-dwelling Japanese women.	Clinical Therapeutics 35: 1418-1422, 2013.
34	Kawamoto R 他	老年・神経内科 第三内科	Hematological parameters are associated with metabolic syndrome in Japanese community-dwelling persons.	Circ J.2013;77(5): 1235-1241.
35	Kawamoto R 他	老年・神経内科 第三内科	Interaction between serum uric acid and triglycerides in relation to prehypertension in community-dwelling Japanese adults.	PLoS One 8:e71367,2013. [3.730]
36	Kawamoto R 他	老年・神経内科	Carotid atherosclerosis as a surrogate maker of cardiovascular disease in diabetic patients.	Hypertension 63: e53-59, 2013.
37	Onuma H 他	糖尿病内科 老年・神経内科	Plasma resistin is associated with single nucleotide polymorphisms of a possible resistin receptor, the decorin gene, in the general Japanese population.	Curr Hypertens Rev 9: 99-107, 2013.
38	Nagai M 他	薬物療法・神経内科 臨床薬理センター	Cerebrospinal Fluid Neopterin, but not Osteopontin, is a Valuable Biomarker for the Treatment Response in Patients with HTLV-I-associated Myelopathy.	Eur Radiol.2013 Dec;23(12):3246-52.
39	Yoshino Y 他	精神科	Extremely Severe Hyperprolactinemia in a Woman With Renal Failure Receiving Risperidone	PLOS ONE (in press)

40	Suzuki Y 他	小児科	Early total corpus callosotomy in a patient with cryptogenic West syndrome.	BMC Gastroenterol 13:134,2013. [2.110]
41	Moritani T 他	小児科	ACE2 deficiency induced perivascular fibrosis and cardiac hypertrophy during postnatal development in mice.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.2013;61(12)716-718.
42	Motoki T 他	小児科	Fatal hepatic hemorrhage by peliosis hepatis in X-Linked myotubular myopathy: a case report.	J Immunol.191:2247-57, 2013.
43	Nagai K 他	小児科 第一内科	Clinical characteristics and outcomes of Chediak-Higashi syndrome: a nationwide survey of Japan.	J Gastroenterol Hepatol 28:48-53,2013. [3.325]
44	Jun Kuwabara 他	消化器腫瘍外科	Usefulness of laparoscopic subtotal cholecystectomy with operative Cholangiography for severe cholecystitis	Hepatol Int 7: 539-547, 2013. [2.642]
45	M Ryugo 他	心臓血管・呼吸器外科	Cardiac sarcoidosis diagnosed by histological assessment of a left ventricular apical core excised for insertion of a left ventricular assist device.	J Gastroenterol 48:413-422,2013. [3.788]
46	Fujibuchi T 他	整形外科	Cytogenetic study of secondary malignancy in giant cell tumor.	J Gastroenterol Hepatol 28:71-78,2013. [3.325]
47	Hato-N 他	整形外科	Mid-flexion laxity is greater after posterior-stabilised total knee replacement than with cruciate-retaining procedures: A computer navigation study.	Int Wound J; in print
48	Yamaoka G 他	整形外科	Different analgesic effects of adenosine between postoperative and neuropathic pain.	Ann Hematol.92:239-44, 2013.
49	Miyawaki S 他	皮膚科	Pressure sore-like ulcers on acneiform papules caused by EGFR inhibitors	Blood.121:4894-901, 2013.
50	Nishimura K 他	泌尿器科	Male infant with a single-system ectopic ureter that required the removal of the ureteral stump after nephrectomy	J Leukoc Biol 93:963-972,2013. [4.568]
51	Tanji N 他	泌尿器科	Combined chemotherapy with gemcitabine and carboplatin for metastatic urothelial carcinomas in patients with high renal insufficiency	J Am Soc Hypertens.7: 259-266
52	Inoue T 他	眼科	Utility of real-time PCR analysis for appropriate diagnosis for keratitis.	Neuromusc Disor 23:917-921.
53	Joko T 他	眼科	Coincidence of Varicella-Zoster Virus Anterior Uveitis in a Patient with Chandler's Syndrome.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 25 : 12-17, 2013.
54	Joko T 他	眼科	Involvement of P38MAPK in human corneal endothelial cell migration induced by TGF- $\beta$ (2).	Pediatr Blood Cancer 10: 1582-1586

55	Sakane Y 他	眼科	Development and validation of the Dry Eye-Related Quality-of-Life Score questionnaire.	Intern Med 52:2203-2208,2013.
56	Suzuki T 他	眼科 屈折矯正センター	Prospective clinical evaluation of 1.5% levofloxacin ophthalmic solution in ophthalmic perioperative disinfection.	CNPT4(2013) 20-22
57	Suzuki T 他	眼科 屈折矯正センター	Conjunctivitis caused by Neisseria gonorrhoeae isolates with reduced cephalosporin susceptibility and multidrug resistance.	Cornea.32(9):1260-4, 2013.
58	Suzuki T 他	眼科 屈折矯正センター	Combination effect of antibiotics against bacteria isolated from keratitis using fractional inhibitory concentration index.	Cornea.32 Suppl 1:S84-90, 2013.
59	Zheng X 他	眼科	In vitro efficacy of ocular surface lubricants against dehydration.	Int J Radiat Oncol Biol Phys.2013 Nov 15;87(4):738-46.
60	Zheng X.	眼科	New findings for an old disease: morphological studies on pseudoexfoliation syndrome-related keratopathy and binocular asymmetry.	Ann Nucl Med.2013 Apr;27(3):261-70.
61	Fujiwara T 他	耳鼻咽喉科	Prognostic factors of Bell's palsy: prospective patient collected observational study	Int J Urol 20(6):640-642 2013.
62	Fujiwara T 他	耳鼻咽喉科	Acoustic Radiation Force Impulse Imaging for Reactive and Malignant/Metastatic Cervical Lymph Nodes	Intern Med 52: 1055-9, 2013.
63	Fujiwara T 他	耳鼻咽喉科	A woman with sudden-onset facial edema	Intern Med 52:1055-1059,2013. [0.973]
64	Hakuba N 他	耳鼻咽喉科	Epithelial pearl formation following tympanic membrane regeneration therapy using an atelocollagen/silicone membrane and basic fibroblast growth factor: Our experience from a retrospective study of one hundred sixteen patients	Auris Nasus Larynx 41(2):153-159,2013.
65	Hakuba N 他	耳鼻咽喉科	Gelatin hydrogel with basic fibroblast growth factor for tympanic membrane regeneration	Neurosci Lett 553(11):176-180,2013.
66	Hato N 他	耳鼻咽喉科	Role of Nitric Oxid in the Inset of Facial Nerve Palsy by HSV-1 Infection	Nihon Rinsho 71(8):718-722, 2013.
67	Hato N 他	耳鼻咽喉科	Infantile inflammatory pseudotumor of the facial nerve as a complication of epidermal nevus syndrome with cholesteatoma	Intern.Med.52:2689, 2013.
68	Okada M 他	耳鼻咽喉科	Liposome-encapsulated hemoglobin alleviates hearing loss after transient cochlear ischemia: an experimental study in the gerbil	Diabetes. 62(2): 649-52, 2013.
69	Okada M 他	耳鼻咽喉科	Air-bone gap in ears with a well-repaired tympanic membrane after Type III and Type IV tympanoplasty	JAMA Ophthalmol.131(10):1331-8, 2013.



70	Ugumori T 他	耳鼻咽喉科	Survival in primary carcinoma of the external and middle ear is strongly dependent on stage at diagnosis	Drug Design, Development and Therapy 7: 305-316, 2013.
71	Kido TO 他	放射線科 第二内科	Stress/Rest Circumferential Strain in Non-Ischemia, Ischemia, and Infarction: Quantification by 3 Tesla Tagged Magnetic Resonance Imaging.	BMC cancer 13(1) : 141, 2013.
72	Kurata A 他	放射線科	Impact of iterative reconstruction on CT coronary calcium quantification.	J Clin Microbiol.51(12):4246-8, 2013.
73	Kurata A 他	放射線科 第二内科	Qualitative and Quantitative Assessment of Adenosine triphosphate Stress Wholeheart Dynamic Myocardial Perfusion Imaging using 256-slice Computed Tomography.	Cornea.32(7):e156-60, 2013.
74	Nakajima N 他	放射線科	Volume-based parameters of (18)f-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography improve disease recurrence prediction in postmastectomy breast cancer patients with 1 to 3 positive axillary lymph nodes.	J Ocul Pharmacol Ther.29(10):887-92, 2013.
75	Nakajima N 他	放射線科	Differentiation of tumor recurrence from radiation-induced pulmonary fibrosis after stereotactic ablative radiotherapy for lung cancer: characterization of 18F-FDG PET/CT findings.	J Clin Biochem Nutr 52:120-127,2013. [2.245]
76	Tanabe Y 他	放射線科	Oncocytic-carcinoid tumor of the lung with intense F-18 fluorodeoxyglucose (FDG) uptake in positronemission tomography-computed tomography (PET/CT).	Clinical and Experimental Hypertension 35: 563-569, 2013.
77	Fujioka T 他	産婦人科	A.Concurrent chemoradiotherapy with nedaplatin in patients with stage IIA to IVA cervical carcinoma.	Ann Nucl Med.2013; 27(8):781-5.
78	Uchikura Y 他	産婦人科	Nucleated red blood cells are involved in endothelial progenitor cell proliferation in umbilical venous blood of preeclamptic patients.	Oral Oncology 49(6) : 551-9, 2013.
79	Y.Hagiyama 他	産婦人科	Embryonal rhabdomyosarcoma of the uterus in a 35-year-old woman: case report and review of the literature.	Int J Clin Oncol 18(5)910-915 2013.
80	Murase R 他	歯科口腔外科	The expression and roles of Id1 and Id2 in the aggressive phenotype of human oral squamous cell carcinoma cells.	Neoplasia 15(7) : 805-14, 2013.
81	Sumida T 他	歯科口腔外科	Targeting Id1 reduces proliferation and invasion in aggressive human salivary gland cancer cells.	Neoplasia 15(3) : 305-14, 2013.
82	Tanaka H 他	歯科口腔外科	Targeting Aurora kinase A suppresses the growth of human oral squamous cell carcinoma cells in vitro and in vivo.	Hypertension Research In Pregnancy.2013;1: 46-51
83	Tano T 他	歯科口腔外科	Prognostic impact of expression of bcl-2 and bax genes in circulating immune cells derived from patients with head and neck carcinoma.	IJOHNS 2:221-227,2013.

84	Tano T <sup>○</sup>	歯科口腔外科	Immunochemoradiotherapy for patients with oral squamous cell carcinoma: augmentation of OK-432-induced helper T cell 1 response by 5-FU and X-ray irradiation	PLoS One 8:e67750,2013. [3.730]
85	Mayuki Aibiki 他	救急部	Effects of Dexamethasone on Pulmonary Oxygen Impairments in Therapeutic Hypothermia for Patients with Traumatic Brain Injury.	Eur J Gynaecol Oncol.2013;34(4): 332?335.
86	Ito Y 他	病理部	Helicobacter pylori Cholesteryl $\alpha$ -Glucosides Contribute to Its Pathogenicity and Immune Response by Natural Killer T Cells.	Thromb Res.131:466-8, 2013.
87	Okumura C 他	病理部	The inflammasome.	J Orthop Sci. 18 130-6 2013.
88	Asai, H. 他	腫瘍センター 第一内科	Co-introduced functional CCR2 potentiates in vivo anti-lung cancer functionality mediated by T cells double gene-modified to express WT1-specific T-cell receptor.	Intern Med 52: 223-6, 2013.

計88

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするものは、筆頭者自らの所属が当該特定機能病院に属する論文に限るもの、且つその子刊種にに掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	著者	所属部署	題名	雑誌名
1	森谷 他	小児科	Reciprocal regulation of cholesterol excretion in apolipoprotein E-null mice by angiotensin II type 1 and type 2 receptor deficiency.	Life Sciences. 92: 276-281, 2013.
2	白方 他	皮膚科学	Second Harmonic Generation Reveals Collagen Fibril Remodeling in Fibroblast-populated Collagen Gels.	Cell Struct Funct. 2013;38(2):227-36. Epub 2013 Oct 18.
3	安川 他	第一内科	Adoptive transfer of genetically modified Wilms' tumor 1-specific T cells in a novel malignant skull base meningioma model.	Neuro Oncol. 15:747-58, 2013
4	安川 他	第一内科	Accelerated destruction of erythrocytes in Tie2 promoter-driven STAT3 conditional knockout mice.	Life Sci. 93:380-87, 2013
5	安川 他	第一内科	Empirical voriconazole therapy for febrile neutropenic patients with hematological disorders : a prospective multicenter trial in Japan.	J Infect Chemother. 19:1126-34, 2013
6	安川 他	第一内科	Examination of the appropriate timing trimethoprim-sulfamethoxazole administration for the prevention of pneumocystis pneumonia in patients with malignant lymphoma.	Jap. J. Pharm. Health Care Sci. 39:465-70, 2013

7	薬師神 他	第一内科	Preventive trial of preheating administration of oxaliplatin-diluted solution in combination with a hot compress for oxaliplatin-induced venous	Jpn. J. Cancer Chemother. 40:537-40, 2013
8	大西 他	第一内科	Fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for diagnostic imaging in relapsing polychondritis with atypical manifestations.	J Clin Rheumatol. 19:104-5, 2013
9	檜垣 他	小児科	Successful introduction of interventional catheterization and other pediatric cardiology services in a developing country.	Cardiol Young 23: 405-408
10	石井 他	小児科	CAMT-iPS cells exhibiting defective MPL signaling dysregulate megakaryopoiesis and erythropoiesis.	J Clin Invest 123: 3802-3814
11	石井 他	小児科	Feasibility of reduced-intensity conditioning followed by unrelated cord blood transplantation for primary hemophagocytic lymphohistiocytosis: a nationwide retrospective analysis in Japan.	Int J Hematol 98: 223-230
12	田内 他	小児科	Salvage allogeneic hematopoietic SCT for primary graft failure in children.	Bone Marrow Transplant. 48:1173-1178
13	田内 他	小児科	Treatment with linezolid in a neonate with meningitis caused by methicillin-resistant Staphylococcus epidermidis.	Eur J Pediatr. 172:1419-1421.
14	三木 他	老年・神経内科 糖尿病内科	Association of hematological parameters with insulin resistance, insulin sensitivity, and asymptomatic cerebrovascular damage: The J-SHIP Toon Health Study.	Clin Hemorheol Microcirc. 2013;55(3):297-311
15	大澤 他	糖尿病内科	Genetic variation in CDH13 is associated with lower plasma adiponectin levels, but greater adiponectin sensitivity in East Asian populations.	Diabetes. 2013 62(12):4277-83
16	大澤 他	糖尿病内科	Modeling Alzheimer's disease using iPSCs reveals stress phenotypes associated with intracellular A $\beta$ and differential drug responsiveness.	Cell Stem Cell 12: 487-496, 2013
17	佐山 他	皮膚科	Eccrine sweat contains IL-1 $\alpha$ , IL-1 $\beta$ and IL-31 and activates epidermal keratinocytes as a danger signal	PLOS ONE; 8: e67666, 2013.
18	白方 他	皮膚科	Role of the aryl hydrocarbon receptor in tobacco smoke extract-induced matrix metalloproteinase-1 expression	Exp Dermatol; 22: 349-353, 2013.
19	村上 他	皮膚科	Aberrant distribution patterns of corneodesmosomal components of tape-stripped corneocytes in atopic dermatitis and related skin conditions (ichthyosis vulgaris, Netherton syndrome and peeling skin syndrome type B).	J Dermatol Sci; 72: 54-60, 2013.
20	村上 他	皮膚科	What is the role of antimicrobial peptides (AMP) in acne vulgaris?	Exp Dermatol; 22: 386-391, 2013.

21	藤山 他	皮膚科	Occupational trichloroethylene hypersensitivity syndrome: Human herpesvirus 6 reactivation and rash phenotypes	Journal of Dermatological Science; 72: 218-224, 2013.
22	藤山 他	皮膚科	Identification of thymus and activation-regulated chemokine(TARC/CCL17)as a potential marker for early indication of disease and prediction of disease activity in drug-induced hypersensitivity syndrome(DIHS)/drug rash with eosinophilia and systemic symptoms(DRESS)	Journal of Dermatological Science; 69: 38-43, 2013.
23	安川 他	第一内科	Abnormal behaviors and developmental disorder of hippocampus in zinc finger protein 521 (ZFP521) mutant mice.	PLoS One 9(3): e92848, 2014.
24	檜垣 他	第二内科 老年・神経内科	Genome-wide response to Antihypertensive Medication Using Home Blood Pressure Measurements: A Pilot Study Nested within the HOMED-BP Study	Pharmacogenomics 14: 1709-1721, 2013.
25	檜垣 他	第二内科	Effects of a Benidipine-Based Combination Therapy on the Risk of Stroke According to Stroke Subtype: the COPE Trial.	Hypertension Research 36: 1088-1095, 2013.
26	檜垣 他	第二内科	Combination Therapy for Hypertension in Patients with CKD: A Subanalysis of the Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Events Trial.	Hypertension Research 36: 947-958, 2013.
27	檜垣 他	第二内科	Role of Transthoracic Doppler Echocardiography in Patients with a Proximal Left Coronary Artery Lesion that cannot be Diagnosed by Computed Tomography Angiography.	American Journal of Cardiology 112: 938-942, 2013.
28	檜垣 他	第二内科	Relationship between Augmentation Index and Left Ventricular Diastolic Function in Healthy Women and Men.	American Journal of Hypertension 26: 1280-1286, 2013.
29	倉田 他	放射線科 第二内科	Stress/Rest Circumferential Strain in Non-Ischemia, Ischemia, and Infarction.	Quantification by 3 Tesla Tagged Magnetic Resonance Imaging
30	檜垣 他	第二内科	Frequent Urination Caused by a Giant Iliac Artery Aneurysm.	Journal of American College of Cardiology 61: e151, 2013.
31	岡崎 他	心臓血管・呼吸器外科 第二内科	The impact of prolonged cold preservation on the graft function and gene expression levels in an experimental lung transplantation model.	Surg Today.2013;43:81-87.
32	三浦 他	整形外科	In vivo healthy knee kinematics during dynamic full flexion.	Biomed Res Int 717546, 2013
33	三浦 他	整形外科	No influence of coronal laxity and alignment on lift-off after well-balanced and aligned total knee arthroplasty.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 1799-804, 2013
34	三浦 他	整形外科	Physiological sagittal plane patellar kinematics during dynamic deep knee flexion.	Int Orthop 37:1477-1482, 2013
35	三浦 他	整形外科	Association between dietary habits and knee osteoarthritis in Japanese older adults: a cross-sectional study.	Orthopedic & Muscular System 2: 1-6, 2013

36	間島 他	整形外科	Clinical and radiographic evaluation of total hip arthroplasties using porous tantalum modular acetabular components: 5-year follow-up of clinical trial.	Mod Rheumatol 23(1) 112-8 2013
37	三浦 他	整形外科	Surgical Treatment of Simultaneous Rupture of the Anterior Cruciate Ligament and the Patella Tendon.	J Knee Surg. 26 suppl 1 40-44 2013
38	大橋 他	眼科	Prospective clinical evaluation of 1.5% levofloxacin ophthalmic solution in ophthalmic perioperative disinfection.	J Ocul Pharmacol Ther. 29(10):887- 92, 2013.
39	大橋 他	眼科	Conjunctivitis caused by Neisseria gonorrhoeae isolates with reduced cephalosporin susceptibility and multidrug resistance.	J Clin Microbiol. 51(12):4246-8, 2013.
40	大橋 他	眼科	Serrated Margins in Pseudomonas aeruginosa Keratitis.	Case Rep Ophthalmol. 4(2):12-5, 2013.
41	大橋 他	眼科	Combination effect of antibiotics against bacteria isolated from keratitis using fractional inhibitory concentration index.	Cornea. 32(7):e156-60, 2013.
42	大橋 他	眼科	Spontaneous bleb formation in a presumed pellucid marginal corneal degeneration with acute hydrops.	Cornea. 32(6):839- 41, 2013.
43	井上 他	眼科	Unilateral variant of Late-Onset Lattice Corneal Dystrophy with the Pro501Thr Mutation in the TGFBI Gene without Deposits in the Unaffected Cornea Using Confocal Microscopy	Cornea. 32:1396- 98, 2013.
44	大橋 他	眼科	Development of genetically modified eliminable human dermal fibroblast feeder cells for ocular surface regeneration medicine.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 54(12):7522-31, 2013.
45	村瀬 他	歯科口腔外科	Id-1 is a key transcriptional regulator of glioblastoma aggressiveness and a novel therapeutic target.	Cancer Research 73(5) : 1559-69, 2013
46	北澤 他	病理部	Efficient genetic analysis of microdissected samples by agarose-bead method: Alterations of $\beta$ -catenin gene in fundic gland polyp and heterotopic gastric mucosa of duodenum.	Acta Histochem Cytochem, 46(1), 19-24, 2013.
47	北澤 他	病理部	Cdx2 expression and its promoter methylation during metaplasia-dysplasia-carcinoma sequence in Barrett's esophagus.	World Journal of Gastroenterology, 19(4):536-41, 2013.
48	北澤 他	病理部	Anti-oxidative effect of vitamin D analog on incipient vascular lesion in non-obese type 2 diabetic rats.	Am J Nephrology, 37(2):167-74, 2013.
49	北澤 他	病理部	Gastric adenocarcinoma arising in gastritis cystica profunda presenting with selective loss of KCNE2 expression.	World Journal of Gastroenterology, 19(8):1314-1317, 2013.
50	北澤 他	病理部	Pulmonary hypertension associated with diffuse deposition of pentosidine in pulmonary arterioles.	Diabetes Research and Clinical Practice, <a href="http://dx.doi.org/10.1016/j.diabres.2013.05.011">http://dx.doi.org/10.1016/j.diabres.2013.05.011</a>

51	北澤 他	病理部	Intestinal inflammatory pseudotumor caused by taeniasis: calcareous corpuscles as a diagnostic clue.	Pathology International, 63(3):193-4, 2013.
52	北澤 他	病理部	The chemokine CXCL12 and its receptor CXCR4 are implicated in human seminoma metastasis.	Andrology 1 (3), 517-529, 2013.
53	北澤 他	病理部	Genetic analysis of the role of Alx4 in the coordination of lower body and external genitalia formation.	European Journal of Human Genetics, doi:10.1038/ejhg.2013.160; published online 14 August 2013.
54	北澤 他	病理部	Vitamin D activates the Nrf2-Keap1 antioxidant pathway and ameliorates nephropathy in diabetic rats.	American Journal of Hypertension, advanced online, doi: 10.1093/ajh/hpt160, September 11, 2013.
55	倉田 他	病理部	Capillary-based enzyme-linked immunosorbent assay for highly sensitive detection of thrombin-cleaved osteopontin in plasma.	Anal Biochem. 2013;440(2):137-141. Epub 2013 Jun 2.
56	増本 他	病理部	IgG4-related disease-like fibrosis as an indicator of IgG4-related lymphadenopathy.	Ann Diagn Pathol. 2013;17(5):416-420. Epub 2013 May 20.
57	増本 他	病理部	The contribution of SAA1 polymorphisms to Familial Mediterranean fever susceptibility in the Japanese population.	PLoS One. 2013;8(2):e55227. Epub 2013 Feb 20.
58	宮崎 他	病理部	Genomics of vasculitis: lessons from mouse models.	Ann Vasc Dis. 2013;6(1):16-21. Epub 2013 Feb 15.
59	北澤 他	病理部	Pulmonary hypertension associated with diffuse deposition of pentosidine in pulmonary arterioles.	Diabetes Res Clin Pract. 2013;100(2):e59-62. Epub 2013 Feb 15.
60	宮崎 他	病理部	A bacterial artificial chromosome transgene with polymorphic Cd72 inhibits the development of glomerulonephritis and vasculitis in MRL-Fas <sup>lpr</sup> lupus mice.	J Immunol. 2013;190(5):2129-2137. Epub 2013 Jan 30.
61	増本 他	病理部	Vibrio parahaemolyticus effector proteins suppress inflammasome activation by interfering with host autophagy signaling.	PLoS Pathog. 2013;9(1):e1003142. Epub 2013 Jan 24.
62	増本 他	病理部	The inflammasome.	Nihon Rinsho 71(8):1497-504., 2013
63	日浅 他	第三内科	Wilms' tumor 1 gene modulates Fas-related death signals and anti-apoptotic functions in hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol 48:1069-1080, 2013.[3.788]
64	櫃本 他	総合診療サポートセンター	Total and high molecular weight adiponectin levels and risk of cardiovascular disease in individuals with high blood glucose levels.	Atherosclerosis. 2013 Jul;229(1):222-7.

65	櫃本 他	総合診療サポートセンター	High-density lipoprotein subclasses and risk of stroke and its subtypes in Japanese population: the Circulatory Risk in Communities Study.	Stroke. 2013 Feb;44(2):327-33.
66	三木 他	老年・神経内科	Association of Chr17q25 with cerebral white matter hyperintensities and cognitive impairment: the J-SHIPP study.	Eur J Neurol. 20:860-862,2013
67	三木 他	老年・神経内科	Diagnostic criteria for Werner syndrome based on Japanese nationwide epidemiological survey.	Geriatr Gerontol Int. 13:475-481,2013
68	三木 他	老年・神経内科	Positive natural selection of TRIB2, a novel gene that influences visceral fat accumulation, in East Asia.	Hum Genet. 132:201-217,2013
69	三木 他	老年・神経内科	Genetic variation in CDH13 is associated with lower plasma adiponectin levels but greater adiponectin sensitivity in east Asian populations.	Diabetes. 62:4277-4283,2013
70	三木 他	老年・神経内科	Association of longer QT interval with arterial waveform and lower pulse pressure amplification: the Nagahama Study.	Am J Hypertens. 26:973-980,2013
71	三木 他	老年・神経内科	Genome-wide association study meta-analysis reveals transethnic replication of mean arterial and pulse pressure loci.	Hypertension. 62:853-859,2013
72	日浅 他	第三内科	Oral administration of carbonic anhydrase I ameliorate murine experimental colitis induced by Foxp3-CD4+CD25-T cells.	J Leukoc Biol 2013; 93: 963-972.[4.568]
73	高田 他	総合臨床研修センター	Switchig Tenofovir/Emtricitabine plus Lopinavir/r to Raltegravir plus Darunavir/r in patients with suppressed viral load did not result in improvement of renal function but could sustain viral suppression:	A Randomized Multicenter Trial. PLOS ONE 8: e73639. 2013
74	高田 他	総合臨床研修センター	Abacavir/Lamivudine versus Tenofovir/Emtricitabine with Atazanavir/Ritonavir for treatment-naive Japanese patients with HIV-1 infection:	A randomized multicenter trial. Intern Med. 52: 735-744. 2013
75	高橋 他	地域医療支援センター、整形外科	Locking due to Cyclops Syndrome occurring after Partial Rupture of the ACL. A Case report.	J Pediatr Orthopaedics B in print 2013
76	安川正貴	第一内科	造血器腫瘍の免疫療法	臨床免疫・アレルギー科 59:682-90, 2013
77	安川正貴	第一内科	EBウイルス感染症－診断のポイント	成人病と生活習慣病 43:1061-6, 2013
78	安川正貴	第一内科	AMLに対する免疫療法の現状と新たな展開	血液内科 67:604-12, 2013
79	安川正貴	第一内科	白血病研究と治療開発の進展	日本内科学会雑誌 102:1649-51, 2013

80	安川正貴	第一内科	血球のトラフィックング?基礎と臨床における最新の知見?	血液フロンティア 23:1367-1370, 2013
81	長谷川均	第一内科	生理活性物質によるヒト制御性T細胞および免疫寛容樹状細胞の誘導	愛媛医学 32(2):91-6, 2013
82	大蔵隆文	第二内科	末梢血管保護と高血圧療法	循環器内科 73: 684-689, 2013
83	大蔵隆文	第二内科	ARB+Ca拮抗薬 vs. ARB+利尿薬	薬事 55: 1115- 1119, 2013
84	大蔵隆文	第二内科	ESH-ESCのガイドラインが推奨する降圧薬治療	循環器内科 74: 390-395, 2013
85	大蔵隆文	第二内科	血清シスタチンC測定の有用性	南予医誌 14: 1-8, 2013
86	三木哲郎	老年・神経内科	第55回日本老年医学会学術集会	血圧 20(11):96- 97,2013
87	三木哲郎	老年・神経内科	超高齢社会を迎えて-ゲノム医学から抗加齢・疫学研究まで-	日本老年医学会雑誌 50(5):608- 614,2013
88	小原克彦	老年・神経内科	サルコペニック肥満の臨床	日本老年医学会 50(6):773- 775,2013
89	三木哲郎	老年・神経内科	生活習慣病成因としての遺伝因子	日本内科学会雑誌 102(1):160- 167,2013
90	野元正弘	薬物療法・神経内科	POC試験の実際	臨床評価 40(2):355- 358,2013
91	野元正弘	薬物療法・神経内科	POC試験:後期臨床試験を成功させるために	臨床薬理 44(4):371- 372,2013
92	野元正弘	薬物療法・神経内科	世界へ貢献する医学・医療の研究	日本内科学会雑誌 102(8):1095- 1096,2013
93	西川典子	薬物療法・神経内科	神経障害性疼痛と治療	日本内科学会雑誌 102(8):2001- 2008,2013
94	檜垣高史	小児医療総合センター	学校での救急処置について(AEDを含む) ~愛媛県の学校の救急医療体制について~	愛知医報1951: 7- 12



95	檜垣高史	小児医療総合センター	学校現場における子どもの突然死を予防するために	日本小児科医学会 報 46: 133-140
96	高田康徳	臨床検査医学	糖尿病以外の疾患をもつ患者さんへの指導 高血圧がある糖尿病患者さん	糖尿病ケア2013 春季増刊 p142-150
97	高田康徳	臨床検査医学	糖尿病以外の疾患をもつ患者さんへの指導 脂質異常症がある糖尿病患者さん	糖尿病ケア2013 春季増刊 p151-157
98	谷向 知	精神科	【アリセプトのすべて】アリセプトの臨床的特徴を再考する ADLの観点から	クリニシャン 60(4-5): 391-396, 2013
99	高田泰次	肝胆膵・乳腺外科	肝移植と脈管浸潤(Kyoto基準)	肝・胆・膵 66(6): 961-966 2013
100	白馬伸洋	耳鼻咽喉科	アテロコラーゲン膜/シリコン膜とbFGF製剤を用いた鼓膜再生治療	Otology Japan 23(3):183-192,2013
101	西田直哉	耳鼻咽喉科	インフルエンザに続発した鼻性頭蓋内合併症の1例	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 第2巻第1号
102	暁 清文	耳鼻咽喉科	アルコール飲酒と頭頸部癌	愛媛医学 32(1):12-14,2013
103	白馬伸洋	耳鼻咽喉科	人工耳小骨による伝音連鎖再建	JOHNS 29(2):181-184,2013
104	暁 清文	耳鼻咽喉科	bFGF徐放薬を用いた末梢神経性嗅覚障害の治療	愛媛医学 32(2):102-104,2013
105	安部 賢郎	精神科	アラニン:グリオキシレート アミノトランスフェラーゼ2の脳内分布	愛媛医学 32(3): 185-187, 2013
106	田中宏明	放射線科	遺伝性出血性末梢血管拡張症(HHT)に合併した肺動静脈奇形に対するInterlockを用いたコイル塞栓術の有用性	Interlock Case Report Vol.2,2013
107	城戸輝仁	放射線科	「必見！3D画像はここがポイント:心大血管領域」	臨床画像 29(12): 1400-1407, 2013
108	大橋裕一	眼科	流涙症Q&A 基礎編 涙液の分泌と排泄について教えてください	あたらしい眼科 30 臨増:3-5, 2013
109	白石 敦	眼科	Diagnostics スリットランプ上達講座 リサミンググリーンを用いたlid wiperや眼瞼の観察	眼科グラフィック 2(2):141-143, 2013

110	白石 敦	眼科	Advanced surgical skills 眼科手術の切開 &縫合 完全マニュアル 角膜移植に必要な切開と縫合	眼科グラフィック 2(1):86-90, 2013
111	白石 敦	眼科	図で早わかり 実戦!眼科薬理 眼科臨床 薬理各論 外眼部・前眼部疾患 角膜内皮 炎	臨床眼科 67(11):79-85, 2013
112	岡奈央子	眼科	もう間違えない!チャートですっきり疾患・検 査別にみる点眼薬 チャートで整理しよう! 同じ疾患に使用する点眼薬 おもなアレル ギー疾患に使用する点眼薬	眼科ケア 15(7):655-661, 2013
113	高橋直巳	眼科	眼科スタッフ必読 42の部位と52の疾患 イ ラストと写真でじっくり解説→パットとおさらい 目の解剖と病気 眼窩・外眼筋 眼窩・外眼 筋に関する疾患 外転神経麻痺	眼科ケア 2013冬 季増刊 319-322, 2013
114	溝上志朗	眼科	緑内障セミナー 緑内障視野の進行判定	あたらしい眼科 30(9):1261-1262, 2013
115	溝上志朗	眼科	何が見える?何がわかる? OCT(第11回) 神 経線維層を評価してみよう 正常像と視神 経疾患	臨床眼科 67(12):1860-1865, 2013
116	溝上志朗	眼科	緑内障セミナー 緑内障における中心視野 障害	あたらしい眼科 30(1):65-66, 2013
117	山口昌彦	眼科	Therapeutics ドライアイ治療の現状と未来 新しいドライアイ治療選択(TFOT)	眼科グラフィック 2(4):400-403, 2013
118	山口昌彦	眼科	【図で早わかり 実戦!眼科薬理】眼科臨 床薬理各論 外眼部・前眼部疾患ドライ アイ	臨床眼科 67(11):121-126, 2013
119	山口昌彦	眼科	流涙症Q&A 基礎編 瞬目と涙液の流れの 関係について教えてください	あたらしい眼科 30 臨増:16-20, 2013
120	鄭 暁東	眼科	光干渉断層計アップデート2013 前眼部編 涙液の形態解析	あたらしい眼科 30(1):9-14, 2013
121	鄭 暁東	眼科	流涙症Q&A 検査編 涙液クリアランス測 定について教えてください	あたらしい眼科 30 臨増 :151-155, 2013
122	坂根由梨	眼科	ドライアイ基本講座 基本手技シリーズ DEQSの使い方	Frontiers in Dry Eye: 涙液から見た オキュラーサーフェ ス 8(2):126-130, 2012
123	坂根由梨	眼科	もう間違えない!チャートですっきり疾患・検 査別にみる点眼薬 チャートで整理しよう! 同じ疾患に使用する点眼薬 春季カタルに 使用する点眼薬	眼科ケア 15(7):662-663, 2013
124	坂根由梨	眼科	もう間違えない!チャートですっきり疾患・検 査別にみる点眼薬 チャートで整理しよう! 検査で使用する点眼薬 散瞳薬	眼科ケア 15(7):684-687, 2013

125	坂根由梨	眼科	眼科スタッフ必読 42の部位と52の疾患 イラストと写真でじっくり解説→パットとおさらい目の解剖と病気 涙器 涙器に関する疾患 ドライアイ	眼科ケア 2013冬季増刊 185-189, 2013
126	鈴木 崇	眼科	眼感染症View Point 真菌性角膜炎治療のエビデンス	Core-Network of Ocular Infection 15:6-7, 2013
127	鈴木 崇	眼科	眼科手術における術後感染 硝子体内注射(高濃度抗菌薬)の網膜毒性	眼科手術 26(2):204-208, 2013
128	鈴木 崇	眼科	難渋症例にチャレンジ!眼科診断トレーニング バチルス属による角膜炎	眼科グラフィック 2(5):544-546, 2013
129	三谷亜里沙	眼科	眼内炎予防 術前～術後の対策 術中 前房内汚染を防ぐ 術中手技を中心に	IOL & RS 27(2):179-181, 2013
130	久門良明	脳神経外科	三叉神経痛に対する外科的治療と放射線治療	A net: Anesthesia Network 17(3): pp14-18, 2013
131	松井誠司	脳神経外科	愛媛大学医学部附属病院脊椎センターの設立から現状まで	脊椎脊髄26(3): 213-215, 2013
132	萬家俊博	麻酔科蘇生科	吸入麻酔薬 亜酸化窒素の生き残る道	日本臨床麻酔学会誌 別冊 vol.33 730-735 (2013.5)
133	浜川知大	歯科口腔外科	Srcの発現抑制は口腔癌細胞の増殖を抑制しTRAILによるアポトーシス抵抗性を解除する	愛媛医学 32(2): 124-32, 2013
134	相引眞幸	救急部	DICを合併した重症病態におけるATIII製剤の薬力学的検討	バイオメディカル, 2013; 23: 25-27
135	薬師神芳洋	腫瘍センター	PETによる悪性腫瘍の治療戦略 悪性リンパ腫診療におけるPET-CTの有用性と限界(特にHodgkinリンパ腫とびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫を中心として)	PET Journal 23:21-3, 2013
136	伊賀瀬道也	抗加齢センター	抗加齢ドックのデータで見る寝たきり予防	日本老年医学会 50(6):776-779,2013
137	尾形直則	脊椎センター	X線診断 Q&A	整形外科 64 1225-1226 2013

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 臨床研究倫理指針に沿っている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反管理規定・ポリシー・自己申告書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 15回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4回
・ 研修の主な内容 臨床研究倫理指針・統計・検体保存の同意等について	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

■内科 (【】サブスペシャリティ領域)

第一内科 (血液、膠原病・リウマチ、感染症内科) 【血液・感染症・リウマチ・アレルギー】

- ・第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行った。

第二内科 (循環器、呼吸器、腎臓・高血圧内科) 【循環器・呼吸器・腎臓】

- ・血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼術の研修を行った。

第三内科 (消化器・内分泌・代謝内科) 【消化器病・内分泌代謝科・肝臓】

- ・この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として、消化管および、肝・胆・膵などの領域、内分泌領域、また代謝内科として糖尿病を含む糖代謝、脂質代謝、金属代謝、そして栄養学の研修を指導した。各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標をもち意欲的に研修、習得する医師の養成を目指す。当科のスタッフは、日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波医学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者の資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

臨床検査医学 (糖尿病内科) 【糖尿病】

- ・1型糖尿病の診断管理、急性代謝異常の診断管理、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病の管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CGM)を用いた血糖測定、糖尿病合併症の診断、治療、管理。予防教育を行った。

薬物療法・神経内科 (薬物療法内科、神経内科) 【神経内科】

- ・脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行った。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行った。

(神経学会指導医・臨床薬理学会指導医・内科学会指導医)

老年・神経内科 (老年内科、神経内科) 【老年病・神経内科】

- ・老年病専門医・神経内科専門医による総括的な研修を実施する。老年内科領域では、高齢者の疾患特性である多病と全身性の虚弱(フレイル)が目映して、総合的機能評価が出来る研修を行う。診療面のみではなく、介護保険など、社会資源の利用の仕方を習得し、かかりつけ医との連携に関する指導も実施し、総合的に高齢者を診療できる手法を学ぶ。神経内科領域では、神経学的所見の取り方をまなび、神経疾患の診方を指導する。特に、疾患頻度の高い脳卒中や認知症などは、プライマリーケアができるような研修を受ける。老年内科、神経内科いずれも入院患者の受け持ちを通して、患者のみならず、家族に対するICを学ぶと共に、介護関連のパラメディカルとの連携を経験した。

## ■外科（【】サブスペシャリティ領域）

### 肝胆膵・移植外科（肝臓、胆のう、膵臓、乳腺、移植外科）【消化器外科】

- ・消化管及び肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医を取得できるように、研修、指導を行った。

### 心臓血管・呼吸器外科（心臓血管、呼吸器外科）【心臓血管外科・呼吸器外科】

- ・心臓血管外科におきましては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標としています。将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行った。

- ・呼吸器外科呼吸器外科におきましては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能です。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行った。

### 消化管・腫瘍外科（消化管、腫瘍外科）【消化器外科・小児外科】

- ・手術を中心に外科専門医習得のための臨床研修を行うとともに、学会発表や論文作成等を含めた臨床研修を行った。

## ■内科・外科以外

### 【精神科】

大学病院および連携病院においての研修を行う。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、それぞれの分野での研鑽を行うと同時に、基本的形成的精神科医としての知識をつけるために、

1. 小児思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例および症状性を含む器質性、機能的、反応性精神障害すべての臨床経験を獲得するように主治医として関わること。
2. 臨床研究として、症例報告を含め学会参加や発表を行うこと。
3. 教室内外の勉強会に参加することを義務としている。

なお、臨床経験5年後には精神保健指定医の取得、また、日本精神神経学会専門医の獲得を推奨している。

### 【小児科】

後期研修1年目より小児科専門医の取得を目指し、さらに小児科各分野の高度医療の研修を行った。特に小児科全般の2次医療、3次医療を研修し、高度医療に関わる分野で診断から治療までを行えるようにした。具体的には血液・腫瘍分野では造血幹細胞移植を含めた難治性疾患の治療、循環器分野では複雑心奇形の管理およびカテーテル治療、新生児分野では極小未熟児のトータルケアや合併奇形児の管理、神経分野では難治性けいれんの治療管理、などの研修を行った。また研修期間中にはこれらの患児の予防接種、検診などの予防医学の研修も合わせて行った。

### 【産婦人科】

日本産科婦人科学会専門医指導のもと、婦人科、産科、不妊・内分泌領域において、患者担当グループの一人として診断、治療に携わる。産科婦人科研修ガイドラインに従って、臨床に必要な基本知識、産科婦人科疾患における診断ならびに治療、技術を習得する。婦人科疾患、産科疾患、生殖内分泌疾患において、後述の診断法、治療法などを習得の目標としている。

1. 婦人科腫瘍学：婦人科疾患における超音波検査、CT、MRI等の読影・診断を行い、また内診による腫瘍の評価および進展度を評価する。婦人科手術手技を理解し、基本的手技の習得、周術期の管理を行う。
2. 周産期医学：胎児推定体重測定や胎児血流測定など、超音波検査手技を習得する。分娩管理について理解し、指導医のもと内診にて分娩進行を把握し、分娩介助および帝王切開術の手技について習得する。生殖内分泌学：人工授精、体外受精における治療手順と基本手技につ

いて理解する。受精卵を管理し胚移植の手技について理解する。

#### 【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で脳神経外科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させると共に、脳神経外科の先端的センターとしての脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、それぞれ脳卒中の急性期治療の実践、脊椎・脊髄腫瘍の診療、手術に必要な脳神経微小解剖のトレーニングにも従事させている。

#### 【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

#### 【眼科】

日本眼科学会の研修施設認定施設であり、眼科認定指導医のもとですぐれた眼科医の養成、を図っている。

1. 角結膜、白内障、緑内障、網膜硝子体、涙道等の領域において、専門外来を通して、臨床研修を行うとともに、年間約1000例の手術症例を中心に手術研修を行った。
2. 定期的なカンファレンスと学術集会での報告を指導することにより、学術的な知識の習得する研修を行った。
3. 高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、手術手技研修センターと連携して御遺体を用いて手術手技研修を行った。

#### 【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行います。極力平等に、かつ効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備しています。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対するの内視鏡的手術、婦人泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行った。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療などは、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行った。

#### 【皮膚科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けています。

皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っています。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能です。

形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っています。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顔面外科専門医などの取得も可能です。

#### 【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観に備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療

実践能力を身につける研修を行った。

1. 高齢者のQOLを支える医療
2. エビデンスに基づく幅広い治療方針
3. 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

また、整形外科専門医取得に必要な臨床症例教育、論文・学会研究発表の指導も行っている。

#### 【放射線科】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする研修を行った。
2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする研修を行った。

#### 【麻酔科蘇生科】

下記の研修を行った。

1. 解剖体を使用しての気道確保法と区域麻酔法の研修
2. シミュレーションを使用した気道確保法、麻酔法の研修
3. 在宅終末期医療の研修

#### 【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後の follow を行った。また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験した。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んだ。

#### 【救急部】

厚生労働省平成25年度実践的な手術手技向上研修事業 愛媛大学救急医学「献体による外傷手術手技研究会」による研修を行った。

## 2 研修の実績

研修医の人数	53人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
長谷川 均	第一内科	特任教授	35年	アレルギー・リウマチ
羽藤 高明	輸血・細胞治療部	特任教授 部長	34年	血液内科
東 太地	造血細胞移植センター	講師、センター長	20年	感染症
大蔵 隆文	第二内科	准教授	28年	腎臓
大木元 明義	循環器病センター	准教授	19年	循環器
伊東 亮治	呼吸器センター	准教授	20年	呼吸器内科
野元 正弘	物療法・神経内科	教授	37年	神経内科
小原 克彦	老年・神経内科	特任教授	31年	老年病・神経内科



日浅 陽一	第三内科	教授	25年	消化器病 内分泌代謝科 肝臓
大澤 春彦	臨床検査医学	教授	26年	糖尿病
高田 泰次	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	教授	31年	消化器外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸器外科	教授	26年	心臓血管外科
佐野 由文	呼吸器センター	准教授	29年	呼吸器外科
渡部 祐司	消化器腫瘍外科	教授	31年	消化器外科
山田 耕治	小児医療総合センター	准教授	27年	小児外科
大西 丘倫	脳神経外科	教授	35年	脳神経外科
白石 敦	眼科	准教授	28年	眼科
菊川 忠彦	泌尿器科	准教授	19年	泌尿器科
相引 眞幸	救急部	教授	36年	救急部
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	26年	耳鼻咽喉科
三浦 裕正	整形外科	教授	31年	整形外科
望月 輝一	放射線科	教授	33年	放射線科
長櫓 巧	麻酔科蘇生科	教授	40年	麻酔科
上野 修一	精神科	教授	29年	精神科
石井 榮一	小児科	教授	35年	小児科
松原 圭一	周産期センター	准教授	26年	産婦人科
佐山 浩二	皮膚科	教授	30年	皮膚科
浜川 裕之	歯科口腔外科	教授	36年	歯科口腔外科

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容（放射線部）<ul style="list-style-type: none"><li>①ハイブリッドOR導入にあたり他院研修</li><li>②新規導入する放射線治療機種の使用に関する他院での研修</li></ul></li><li>・研修の期間・実施回数<ul style="list-style-type: none"><li>①7月、8月に一名ずつ実施</li><li>②10月～1月にかけて1名1週間（5日）をめどに実施予定</li></ul></li><li>・研修の参加人数<ul style="list-style-type: none"><li>①手術部ハイブリッドOR業務に携わる診療放射線技師2名</li><li>②放射線治療に属する診療放射線技師4～5名（1期間1名ずつ）</li></ul></li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容（放射線部）<p>全国国立大学の新人技師長を集め、技師長のやるべき仕事を紹介し、新人技師の研修、法令に関する研修等を行う。</p></li><li>・研修の期間・実施回数 毎年6月に、京都大学にて行う</li><li>・研修の参加人数 新人技師長含め10名</li> <li>・研修の主な内容（薬剤部）<p>薬物療法に参画し、最適な薬物療法支援、服薬管理について検証、検討する（症例検討会）</p></li><li>・研修の期間・実施回数 2回/月・1回30分・9回</li><li>・研修の参加人数 129名（延）</li> <li>・研修の主な内容（薬剤部）<p>各科で難渋する症例検討とレジメン審査（カンサーボード）</p></li><li>・研修の期間・実施回数 1時間・6回</li><li>・研修の参加人数 116名（延）</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容（薬剤部）<p>経口抗がん剤の服薬指導ロールプレイ（経口抗がん剤服薬指導セミナー）</p></li><li>・研修の期間・実施回数 1時間・2回</li><li>・研修の参加人数 37名（延）</li> <li>・研修の主な内容（薬剤部）<p>HIV感染症専門薬剤師の職務に必要とされる高度な知識、技能、臨床経験を修得のために講義・実地研修（HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修）</p></li><li>・研修の期間・実施回数 2日間（7/28-29）・1回</li><li>・研修の参加人数 1名</li></ul>

・研修の主な内容（薬剤部）

保険薬局との薬学的アセスメントの共有と活用

・研修の期間・実施回数

2時間・1回

・研修の参加人数

90名

・研修の主な内容（薬剤部）

薬局薬剤師のための注射薬混合実技講習会

・研修の期間・実施回数

3時間・2回

・研修の参加人数

39名（延）

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 檜垣 實男
管理担当者氏名	放射線部長 望月 輝一、ME機器センター長 泉谷 裕則、薬剤部 荒木博陽、医療情報部長 石原 謙、看護部長 田淵 典子、総務課長 菅波 悦朗、人事労務課長 武智 和康、医事課長 齋藤 英雄、医療サービス課長 西部 敬司、経営管理課長 藤田 義和、研究協力課長 佐々木 昇

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 薬剤部 看護部 放射線部 医療情報部 医事課	エックス線写真は集中管理 (放射線部) カルテは医療情報部で一括保管 (1患者1カルテ)
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課	
	高度の医療の研修の実績	人事労務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の制第一項各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	

--	--	--	--	--

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	運営部長 越智 郁夫	
閲覧担当者氏名	総務課長 菅波 悦朗	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要 開示請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき、「法人文書開示請求書」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧してもらう。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：①患者中心の医療の実践 ②チーム医療の実践、 ③医療安全に関する組織的取り組み ④インシデントの報告と情報の共有 ⑤機能する医療事故防止対策 ⑥適切な医療事故への対応 ⑦患者相談の実施、指針等の閲覧 ⑧医療安全教育・研修、啓発 ⑨医療安全管理マニュアルの作成・更新</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：①医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関する事 ②医療事故防止対策の検討及び研究に関する事 ③インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事 ④医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関する事 ⑤医療事故に対する対応策の策定に関する事 ⑥患者及び家族等の被害者への対応に関する事 ⑦関係公的機関への報告に関する事 ⑧報道に関する事 ⑨その他、医療の安全管理及び医療事故対策に関する事</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容： (平成25年度) 平成25年10月29日 第1回 医療安全に関する講演会 テーマ「医療安全を支えるノンテクニカルスキル」  平成25年12月11日 第2回 医療安全に関する講演会 テーマ「医療安全管理の基本」  平成26年3月5日 第3回 医療安全に関する講演会 テーマ①「苦情等対応への問題点と・・・」 テーマ②「院内における暴言暴力及びクレーム対応」  (平成26年度) 平成26年9月28日 第1回 医療安全に関する講演会 テーマ「安全対策の落とし穴～その仕掛けと仕組み」  平成27年1月9日 第2回 医療安全に関する講演会 テーマ「Team STEPPS」  日程未定 第3回 医療安全に関する講演会 テーマ未定</p>	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○インシデントが発生した場合、当事者又は関与者、発見者がインシデントレポート報告を行うが、報告者は、インシデントレポート入力時に、事例発生原因の分析、患者影響レベル評価、再発防止策を検討して報告をする。</li> <li>○報告されたインシデントレポートは、GRMが毎日全ての事例に目を通し、発生原因分析の確認、影響レベル判定の確認、再発防止策の確認を行い、報告者が記載した分析、対策について再度分析しコメントを記載する。</li> <li>○コメントが記載されたインシデントレポートは、看護部に回覧し、看護部のリスクマネージャーが更にレポートにコメントを記載し、各報告部署に戻される。</li> <li>○GRMは病棟に出向き、記載されたインシデント事例の事実確認、不足情報を収集すると共に、部署のリスクマネージャーに報告事例の分析不足、再発防止対策不足について助言するとともに病棟管理者としての事例の分析、再発防止策について意見交換及び指導をする。</li> <li>○重大な事例は部署がRCA分析を行うように指導する。</li> <li>○患者影響レベルの評価が難しいインシデント事例が報告された場合、緊急を要する事例はGRMが医療安全管理部職員と院内メール等で意見交換を行い患者影響レベルを判定する。</li> <li>○報告されたインシデントレポートの中から、GRMが患者影響レベル3b以上の重大な事例、影響レベルの判断が難しい事例、警鐘的な事例を取り上げ、インシデント検討会議でインシデントの分析、改善策の決定・立案、影響レベルの判定を行い、事例の検討を行っている。</li> <li>○インシデント検討会議で検討された事例は、医療安全管理委員会で報告され、情報の共有と原因分析、再発防止対策の検討を行っている。</li> <li>○医療安全管理委員会で検討された事例内容は、リスクマネージャー会議で報告され、情報を共有するとともに、意見交換を行い、改善策の実施をすすめている。</li> <li>○リスクマネージャーは、医療安全管理委員会で検討された事例を、各部署の全体会議で報告し、部署の職員と事例を共有すると共に、再発防止策の推進を行っている。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ( 2名 ) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ( 4名 ) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 24 ) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>①報告のあったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関すること。</li> <li>②インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関すること。</li> <li>③インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関すること。</li> <li>④医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関すること。</li> <li>⑤医療安全管理委員会等で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関すること。</li> <li>⑥安全管理に関する教育・研修等の実施に関すること。</li> <li>⑦医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関すること。</li> <li>⑧事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること。</li> <li>⑨患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関すること。</li> <li>⑩事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導に関すること。</li> <li>⑪他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネージャー等との連絡調整に関すること。</li> <li>⑫医療事故防止等に係る情報提供に関すること。</li> <li>⑬その他医療の質の向上及び安全管理に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>



(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： ①院内感染対策に関する基本的な考え方 ②院内感染対策のための委員会その他の院内の組織に関する基本的事項 ③院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ④感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針 ⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： ①院内感染の調査，予防対策に関すること。 ②院内感染防止の実施，監視及び指導に関すること。 ③院内感染発生時の措置に関すること。 ④職員の院内感染の教育に関すること。 ⑤その他院内感染防止に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 平成25年度 第1回 感染対策・・・いつやるの？（平成25年7月22日，23日，26日） 第2回 医療従事者のための結核感染対策（平成25年10月16日，30日） 第3回 院内で注意すべき眼科感染症・MRSAってどんな菌？（平成26年2月7日，12日） 平成26年度 第1回 感染制御部からお伝えしたい5つのこと （平成26年6月30日，7月1日，2日，3日，4日） 第2回 感染管理のパラダイムシフト～何を変えれば良くなる？～ （平成26年8月29日） 第3回 消毒薬と抗菌薬（仮題） 平成27年1月又は2月開催予定	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ICT会議において事例を検討し，問題点の分析を実施している。またその結果を含めて院内感染対策委員会で報告，重要な事例については，病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。 また研修会については，参加者アンケートから研修会の要望を調査し，次年度の研修計画の参考としている。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： ○ 薬剤の取り扱いについて H25/5/28 1) 抗がん剤の取り扱いについて 2) 処方薬・注射薬の取り扱いについて 3) 麻薬・向精神薬の取り扱いについて 4) 医薬品情報について ○ 持参薬の取り扱いについて H25/8/20 院内ルールと持参薬に起因するインシデント防止について ○ 麻薬の取り扱いについて H25/10/1 麻薬に院内取り扱いを注意喚起する	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ○ 医薬品安全管理手順書は年 1 回更新しており、今年度は平成25年9月に更新した。 ○ 病棟配置薬は月1回以上、数量と使用期限を確認している。 ○ 疑義照会の内容は、電子カルテに記録している (院内処方せん、院外処方せん) ○ 院内製剤品は侵襲度のよってリスク分類して、ラベルに記載を開始した。 ○ 持参薬は使用基準を定めて、標準化するように進めている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 採用薬の自動車運転等の禁止・注意の記載のある薬剤についてリスク分類を行い、外来院内処方患者を対象として自動車運転等の禁止・注意の記載のある薬剤は文書を用いて服薬指導の実施をはじめた。その記録はカルテに記録している (H26.6.12～) ○ 副作用情報は、病棟で薬学的管理を行う薬剤師により日常業務のなかで患者、医師、看護師から収集したものを薬品情報管理室が収集する。月2回連携カンファレンスを行い、副作用の情報共有を図っている。 ○ 医薬品の適正使用のモニタリングについて 「医薬品適正使用のモニタリングアルゴリズム」に従い、適正使用状況の確認を定期的実施する。緊急安全性情報 (イエローレター)、安全性速報 (ブルーレター)、その他適正使用情報の中で薬品情報室が重要と判断した内容についてモニタリングを行う。 MD View/IBMにて処方医、患者情報、処方状況、血液検査値等を調査する。 電子カルテメールにて処方医に医薬品適正使用情報を提供し、入院患者においては病棟担当薬剤師と情報共有をはかる。	

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年20回
・研修の主な内容： 人工呼吸器」、「輸液ポンプ」、「ペースメーカー」、「補助循環装置」、「除細動、AED装置」、「血液浄化装置」、「高エネルギー放射線発生装置」、「放射線照射装置」等についての使用方法や点検、トラブル対策、有効性等を中心に研修実施しています。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 定期点検、日常点検 を主に実施しています。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 関連インシデントの提出と改善分析 院内HPを利用した「安全情報」の共有化	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・日本医療機能評価機構 平成23年10月24～26日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ及び印刷物 ホームページ該当ページ 当院について 承認・指定状況 <a href="http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/aboutus/license">http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/aboutus/license</a> 愛媛大学医学部・附属病院概要2014 31ページ (8) 医療機関の承認指定状況	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1. 中央診療施設において、複数診療科を組み合わせで診察を行っている。 小児医療総合センター (小児科、心臓血管・呼吸器外科)、呼吸器センター (第二内科、心臓血管・呼吸器外科)、脊椎センター (整形外科、脳神経外科)、睡眠センター (第二内科、耳鼻咽喉科)、循環器病センター (第二内科、心臓血管・呼吸器外科) 等 2. ハイブリッド手術室を設置し、内科と外科が連携して治療にあたる環境が整備している。	

(様式第 8)

愛大医総第 239 号  
平成 26 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 愛媛大学長 柳澤 康

愛媛大学医学部附属病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

- |  |
|--|
| ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜  |
| 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1. 循環器内科 2. 消化器内科 3. 老年・神経内科 4. 薬物療法・神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1. 消化器腫瘍外科 2. 肝臓・胆のう・膵臓・移植外科 3. 消化器外科 4. 心臓血管・呼吸器外科 5. 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名につ

いて記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑬麻酔科	⑭救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1. 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

1. 病理診断科
----------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

### 3 不足している診療科の整備のための予定措置

救急科について平成26年11月1日設置予定
-----------------------